

つるぎむかしがたり

剣山登山バス



1972年(昭和47年)夏撮影。剣山登山バス。

登山シーズンには剣山(見ノ越)へも一日3便往復していました。ボンネットバスは1950年代に全盛期を迎えましたが、大量輸送時代とともにボンネットバスの導入例が減少し、1971年には量産タイプのボンネットバスの製造は中止されることになりました。しかし、製造中止後も、ボンネットバスは山間部の路線を中心に使用されていました。

ボンネットバスの特徴は、その構造上、前輪が運転手より前に位置していることです。そのため、山間部の狭い路線では、運転手が路肩の位置を把握しやすく、そのことが運転のしやすさにつながっていました。また、集落の曲がりくねった道においては、通常の箱型車体ではオーバーハングとなる前頭部が民家の軒に支障をきたすケースもありましたが、ボンネットバスでは軒下にボンネット部分をくぐらせることにより通過可能でした。このため、ボンネットバスを通常の箱型車体のバスに置きかえるにあたっては、バス会社が、民家において、軒を切り詰めてもらった、という逸話ものこっています。